謝恩御傘

塵一の外ちりの世をも又育て謝恩
永久に御恵に濁塵世を塵く芳をも
朝に積てとこしへ
和歌 みそなはす水辺に居て玩ぶてい物を
翠雲紫霧絡ても同じ
和歌 みのなみ者をあり可姫早
の字振の字たゆ二句ほつまを
いろりと言扱はあり色い字乃
大事神秘の祖ゆて為者

人世上ハ[illegible]
[illegible]
数字[illegible]
[illegible]
の字ハ[illegible]
[illegible]

多種　[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
字[illegible]
ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

多[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

おなじく伊勢の御師にて宗務法師七
日さかの地祝方に竹田大夫殿とよる
所とて新式に如説とまるべし
あらひうちんや山宗務方連歌
ふへ九にあとへて宗祇のあるあか
ぬしへ言れて連歌七日能に言
路とおとの四日 連歌ある云なれ
を能あり三日方に仕る俳諧を
に又八道ふみ歩みわ〳〵ぬ
道三日程又濃州方面ふ
り方にあ〳〵ぬ路ふり歩の五日

程と言葉にあるを言路浜路
とひとりの小路〳〵まあり浜路
に新式に法師にて打数浜路
也あまと言路の小路〳〵言路人
日下てかよて夜天人名月日あと
時通夜に方ふも言ひかよひ
ちかとよりあまはり歩の道路
津之能〳〵名別有〳〵

路小 苦地古小地一日不堅俳諧
ばんに用名所地白あ〳〵付句
屋人津用捨有〳〵

ちゆこに道　武白ゑ

散乃字　濁あハ三百ゑ仮名乃ちゆ
に紅葉木乃葉ホのちる連う
打ゆ仮（元濁あハ面ゆ仮名あり
菅代字　新式に濁ゑ言に一
元百代地の印ゑ〜にのせ字ゑ
信用に有ゑ〜する濁あハ打に使
有ゑ茅屋と新に使てもはゑ
切にたたのもゆ　白神にとて国ゑ
に飯ゑあれむとゑかりハ不書

利

里ち代ゑ〜ゑ　始ゑ紙ゑ呂代新ゑ
に成面式道程なれと真ゆ法ゆ
里仮名の字ハ雑ゆて書ゑ
里〜たん　里んと代年ゑ始ゑ宮
等濁濁多字まれと宮部代出濁に
里ゑあ〜ゑあ連ゑ打ゆ仮名

ぬ

ぬとぬ仮不のぬ大切乃ゆ打越ゆて
寄仮ゑ面ゆ定新式ゆゑいるハ
不のぬ変ゑふのぬとゆてゑ〜ぬゑ
ぬゑとの類ゑ今ハ付白ゑあり仮ゑ又

なれはむぬとやいたりぬとこひなるの
新んはりんぬりとハ二句去ん不のぬと
おりんぬとハ文字を使ふ次ん字句也
すりにぬとんそんたひもよりぬと有に付句
ハ世ハ家筆ハ和さてぬとどめも仮
句ハ折おひ少ゆく文ハに付ぬ文にる
まを新式に大切とハ初え稀なとハ
筆ハ和ハ仮いりまいそいりるえね
文字ハれと言実ハ字とハ文え
ぬ是んはりんるとのりり 連に
一巻二句 脇ハ折ばりて三句も有え

句りりまりまりの三字ハ初
連に句ばきりんは脇ハ七句去え
ぬ 非ス人倫ハ人倫と
也言教にわりも新式んばるる
近代農人代選んぬ まハも是人
倫ん文字もりりす脇に主殺主若
といハ句も人倫ん新式に部ばまと
月ばハと云ハ人倫にわりばとい
るハ句よくりまハ文んハ句を
人倫ぬ ハ人倫ゆりりばとりハ
を新式に句ハ新式ばん人

新式入れ紙をしぬ布にめを入れ湾に
海に出あるを清[illegible]乃数[illegible]入れ[illegible]
あるいは[illegible]と家ぬ[illegible]
めあり[illegible]ぬ[illegible]
[illegible]家ぬ[illegible]倫[illegible]
あるか

ぬ家の伏　三句去[illegible]
[illegible]九今[illegible]蝶[illegible]のぬる[illegible]
[illegible]
[illegible]
柳[illegible]

おなじ句祝の[illegible]
ぬるく　蛙　連に二あるを[illegible]
[illegible]

ぬるくに袖もそのそ[illegible]　連に
[illegible]
[illegible]

ぬる袖　[illegible]二句去[illegible]
[illegible]の[illegible]
布[illegible]　水辺に[illegible]
[illegible]蟬[illegible]

ぬ[illegible]ぬ[illegible]

皆二句ちりぬる梨

ぬ屋ん　篇り連に二あれを雛

小い形ちゑ句の文字ちゑて

三有篇〜と篇りちゑを連に

篇ちゑ姫へて雛に七句去へ

篇

篇への初　二句去へちゑ篇日ゑ篇

梅ちゑ篇去ゑて去ゑ篇ゑて篇

篇ゑとの歌皆二句去へ

篇い篇り二句去へ篇ゑ篇ゑ篇ゑ篇ゑ

ゑとゑの篇りに有篇へ

那〜ん　篇篇らん篇ゑ〜歌へゑ

んはゑ〜んゑとの二字ゑんゑあへ

かりて〜ん篇〜ゑゑ篇ゑ篇ゑ

篇篇ゑゑの字に付て只二句去へ

らんと篇ゑん那ん篇ゑと

ゑ年ゑゑ年ゑ形〜

壺

世言記に一雛諸ゑゑ女ら〜ゑ

と歌に記て形ちゑ今一句皆

て い作ゑ壺ゑ女の字に形ちゑ

姫人又男ゑ〜ゑ字ゑ篇ゑ

此格も女郎花に二句去に准すへし

男 新式に一座一句物也不審なりとそ
尤正新連歌には句に一乃物也と云
然るに古式程之誹諧ハ色に遠ざけたき
我誹家とてすまじき百韻に男ともと
神男も一句ありて我誹人男ゆり男あれ
ことに今は一句すて男を生新にまれ
次男神と云ひて神祇なまれ次又
西誹よりも前に男のことく以字又あ
男もハ男の字に於いて次小児と許し
出来の家にいつても偽る小児と

女

是にて人倫にハ姓へつける男を
いも二体也とは云ふ事も我誹なへきえ
嫌ふなといひても只一人の句に句
此は悪きえ誹に去る一句二ハ有つ次
女房女性なと前いひても有之
とりて乙女のらなとハなと同字なれと
めといひ乙名ハ女に誹姓へ女
前誹ハ人倫誹より去て我誹人名
有之 去別女性新式に定有
ハ前連歌には常に持る神祇家
之誹諧にハ古連歌の人と嫌ふ事也

のくらはりて強いやし或年数
も耳に去年弾き用ゆる方式な
ほ世界代あるべいはゆく有変
業者等〳〵めつらしうこれ稀な
はしめ見寸人数多入ておりう
せん物の程なれを命じ用る可
れ拍に実際ら雑業人数智の所
へり決め相め稀こめんとり大勢人
倫ゆあり〳〵されて女ふも世性みる旨
去年〳〵芸なる知ゆく法乱あき者
れて相に所〳〵有ら表所方

遅日（おそき） 世界永日有り〳〵次雑物ハ〳〵
日と二遅日と去〳〵一業沿当人永日也と
新に漬て毎訳日乃酒ある乃酒おそく
南風日とい乃てもあるそく日に御人
春人ものを方も遅（ひかく）日も同じ

器 共一名に一雑物ハ去三名
器去笠三人絵年の金器器色六体
方去方三の内人ものり器人名
字あれて山数にかきて次

小型 共一名に一雑物ハ名農
小型一も又名の中型一ありても年

小野二ありうち杉谷とて二有地小
野紙もけ間米谷〜小屋〜ゆ奥
も山数ゆあり〜ゆ

城ち　二郡諸ゆ小ちり　遠ち遠迫谷杉
城久有　二郡二百九地久郡二百地ち
い二もあるも遠迫も遠ちもなりくけ
く家ゆ郡いけ遠も一百けちく家
に久ゆきんとわ城ちち有（ち久
久ん久〜とあ久ちち有（ち久
いけ遠ゆ久久ち二百代内久城ち
遠遠ち久ん久ゆ郡ゆ久ち久ち

久遠郡ち〜ゆ郡いに郡百けち城久遠
ち久〜い二百ち久又ち久ん久郡に諸久
いいゆも有ん郡迫ち一遠ち久ち
ち一郡〜代地ち久ん久郡ゆ久ん
久ん久〜ち有代に久郡ち二百ち久
遠　郡ち城郡ち地乃郡地農ち郡舞い
城遠も城郡城城城ち郡
郡城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城
城城城城城城城城城城城城城城城城城城

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

小田久[illegible] 去ん非二水辺一先古城さきみ
[illegible]後小水城[illegible]田城作りの新
[illegible]二百ん田城[illegible]
[illegible]

遠樹 去ん[illegible]て候とて去ん

小忘衣 神祇ん[illegible]ん大業舎の時着
[illegible]大[illegible]

小舟連小小舟一[illegible]て[illegible]小舟
[illegible]小舟二[illegible]
[illegible]小[illegible]小[illegible]
[illegible]舟二[illegible]
[illegible]

城上紙 三百去ん おとと小二百去ん おとと
付変[illegible]
城[illegible]孫 [illegible]地よ三百去ん
親小子 二百去ん 父母[illegible]

多羅ち城中も同前[illegible]次
[illegible]羅ハ人其の親と子共[illegible]親に
筍(たけのこ)めくらぬ子ホハ[illegible]ても[illegible]
[illegible]但親とも子の字の内に子共[illegible]
[illegible]ても草木[illegible]乃子[illegible]
親とも[illegible]にハ[illegible]て[illegible]打
[illegible]姫[illegible]
城[illegible]紀 賤(しつ)乃[illegible]とよめる
皮[illegible]城[illegible]文[illegible]
川城[illegible]紀[illegible]ハ柏木[illegible]
城[illegible] 迷[illegible]に[illegible]次

鴛鴦(をしかも)ホに深しきと結てハ[illegible]
言葉[illegible]
[illegible]の地[illegible]著の詞[illegible]
[illegible]ハ夜に[illegible]
[illegible]むすとの詞[illegible]
[illegible]

和

若菜(わかな)[illegible]一日て傳[illegible]
[illegible]菜[illegible]字今[illegible]菜つきハ
春[illegible]菜の[illegible]若菜(わかな)[illegible]
菜とは[illegible]ハ雑之千菜(ほしな)雑之菜(な)[illegible]

菜畠菜雑菜菜の菜は略雑
つまこなる菜秋に菜のてあちいまこに
仮菜は海苔なる切麩のつるとつむとれ
いまこに菜畠なる雑にいつまこみてと
一定の菜の字二とこなる他野菜
汁さい調菜あとたのみおてて
れなこて一有一其由いさいな
ふよめて云ふもあ〜次こまもあ
なてまこ菜の年ふなる汁えは汁さ
はもくひるのれるれ菜二の和に今
一有に他れ名に同名れ仮なて

別悪 二種悪あいこあるを雑ぶると有
云云ても悪なまここの四こまぬく
もこう海悪なれ麩文字より〜すい
三句の解るを

分麩 悪のんこ同年に古き新式
文まこ新式は可姫折紙一枚の所にく
ふこう〜実に人は只海ふ流に麩制
と悪は麩とい折紙姫とふ半まて
いまこれて悪のふとふ白に立の
麩海とふ白い速に沼巴るとい悪
姫とれ〜に姫ふ海に七白云今

新式に於ては[illegible]
八幡宮と云白地文字[illegible]
の別は攻と[illegible]字付て[illegible]
[illegible]別

[illegible]きぬ〜 連に[illegible]
[illegible]の別[illegible]
きぬ〜[illegible]
[illegible]字 付白可[illegible]
きても[illegible]

別[illegible] [illegible]
[illegible]

[illegible]付白新[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

新式云[illegible]
[illegible]
用[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

志門当れ二句去るとこの事り僻事へ
拙れハ芭蕉ヨリこの事とし二句と云るなん
芭蕉のの実名玉志憂ものとそ
志事とこるとく和州志の門人
二句姿とこ(ハいて孤なきく友へ牡芭蕉
のの女性人の憂(うれい)ハ玉くるの玉とし
よ事ハ特りあ(ハ母(とし)るとの玉ハ(ハ所ハ
桂園弦のも半てのもとの人を
へ乞恋乃侯ら寺事こるへ芭蕉のの友
へ又(のき)ハ生(ハ志事とこるいの玉ハ
こ玉志憂ものとこ弦も有さ(ハ)ら

志れこるとこ玉こるとハ一章二名と云ハ
古へもあり又おへとこ弦も有り作弊
地俗のこハ玉へとよめ家ハ付さ実
地元(ハう)ハ俗元(ハう)志へ玉こて歌ハ生
志事こるとこ芭蕉のとこ玉ハ玉別へ利に生
(ハ)志こるのハ乞(ハ)ら所へ難へ芭蕉も
姜玉弦孫と難へ二名実玉ハ
志こるとこる二句ハ有り事志こる
有て玉玉へ芭蕉のとて一句玉(ハ)へ
玉事も地を(ハ)ら玉こるハ玉こて
清二計(ハ)へ仕連に一句ハ地(ハ)

二句連文多く句の上に用ひる志
と云句に用ひの志まハ形容詞
花の咲志まを或志憂を或ハ苦
なとハ付ても句の上に用ひる

志字 連に句去詞ハ二句去之日
と云字ハ書てもこうるして心之ひ

若葉 表友有表説加和名抄
ち友を大切こうてる友云ハ形式
此字紙を紙と義紙ハ白紙友
と云義を以木の葉を葉と此若
葉ハ去ふ句の上

郎君 とうても人倫に用ひ寸平人
此字ハ詞に用ひ寸無言抄此説
紙を書くハ此日和に生紙を書
も乃ハ卒去の濱の玉に用ひ寸と
ハ変句とうか文ハまを云ひ
山嶽海人も郎君と天子紙ハ
中に分ハ科有て郎君ハ義
やちよとよめる友今の家
高速欲漏に用ひ寸に元長
ふ所まを和名ゆめく長友

和田乃原 此ハ形紙姓詞ハ義

姥〻〻田乃字付て毎不苦原氏宮ち
三句去奇里

川毋〻 柳 藤〻川乃ハ藤にあ〻柳氏
渡氏川乃ハ藤〻川辺柳河〻みるの
去奇も藤〻

わ〻田 ゑ毋ゑ毋ゑ氏に柳〻柱〻柱〻
わ〻ゑ〻ゑ〻

ゑ〻ゑ〻ゑ〻 去奇ハ去奇〻ゑ〻ゑ〻
〻〻柳奇ハ去奇〻ゑ〻ゑ〻ハ去奇〻ゑ〻ゑ〻
のゑ〻ゑ〻ゑ〻ゑ〻ゑ〻ゑ〻ゑ〻ゑ〻ゑ〻
柳の宮氏二句ハ〻

若水 去去〻元百あ〻あ〻寸
ゑ〻 鉛 春〻 川乃め去〻乃ハ交〻
川乃去去〻去〻去〻ゑ〻ハ雑〻
ゑ〻ゑ〻 去〻柳〻

川乃葉 葉の去〻ゑ〻葉ハ去〻〻交氏季
柳柏ゑ〻柳の季柳柏ゑ〻ゑ〻わ
〻葉〻氏季〻〻去〻ゑ〻去〻ゑ〻

川楓 交〻去楓ゑ〻 若竹 奇〻
ゑ〻 〻〻〻〻氏〻〻〻〻〻〻〻〻
去歌柳姥〻〻姥〻〻〻〻〻〻〻〻
三句去〻〻弾ハ〻〻ハ〻歌〻〻

あかう〜次々に八幡〜兼代さも
綿付白絹〜綿やとれば新
あか〜〜長絹〜本綿ある〜綿丹
八幡〜〜次々に白さにうり色のあれ
さ紙あか〜〜きき綿島おとに有
紙ちう〜に柱地〜紙きあ〜本綿
は道八幡〜綿ともめんうち生てもふ
若唐ちさてめんときうえとし
めと本綿八紙ちう間云綿り
もめ〜因なるあに生ても長さ八
なる長さ蔵の綿ふ紙ありとて本

綿八類〜八幡〜本綿紙又本に上
ありうえ長もめんと長さ紙〜綿八
各別の地とん作り云日八長さ
字付てあ間うにあ新と本

加

武乃字　加ゆる字の支爰白外
ぬうに久るとて〜と二ある中帳紙
久てと新式に白さんうふあもき
歌出さと間ゆりあて八成の
みな二白云八幡あて

杜若　連歌に八一句あれて派ふ八二句

去りハ和歌の題ニハ春の地をもれ大
連歌と俳諧ニハ又少事あり哉別
無之沖一些二句程拘ハ句御披合上句
下句披合折紙合て去嫌之但一ハ句まき
つまく一ハ二ちやくと叙にまり鳥よ
去ねるをと定ある事二の間之折紙合ふ
在し水辺なり

水鳥　冬也哥ニも此説有事也尤
冬ニ至る鳥と成てて去く連歌
ニハ冬一句の物なれど俳諧ニて
者よく冬なるつましく叙ニよる

而ニ春風ハ物事連て無き一句ニて
要ハ又鳥よみ鳥と云物有之の為
と書しる鷺とも又いふ又あり無之
里ニ引学せ有歌人ふり名し不入
ニて俳諧ニ用事也此注用之

隠家（くれが）　述懐之俳諧ニハ二句去也
又去ニハ隠居（いんきよ）隠遁（いんとん）隠者なとも
顕れ見て有ハ隠家ハ居ニ似
二句去れど隠士隠遁なと居なる
又隠居之隠家連ニ隠家連ニ
句数迄ハ俳諧ニハ七句去也　山家

合貝家家中一家族なとゝ云ふハ居所
嫌ハで釜并蓋或のらるゝハ居所
にあらず寸ともも一句二句の間をへだつへく
ミ家に世話いとふ身代揚るなと
付句 同じこと

居 表一折一ッ居表折中に之
し誹諧ニハ表折の内にも嫌ふ事ニ候
分所句今一入念入上にハ物も嫌ひ申候
居とハ秋越路にわたて三ッ隔たり
残も表ゟ入るゝ物を云ふ所は
題にハ旅ちり交に出せと無連

誹にハ表に嫌ふ所の意なるのよ所
句にもも嫌ふあり又も所々居
も表に嫌ひ前句ハ名ところ居も
有とも一体に居句無に去る姓に
しるくとハ二有りりぬくとハ二句
去りまつの句嫌ひへき八方より
嫌ふ分まぬ交え居字居宇治嫌え
居構嫌にあり寸天ぬ之生類にも
寺居にてれハ居并之居除嫌え
生類之鳥ゟ書分所居ハ生類なり
打寸句積ふより来て表嫌ハ季

[illegible]

ていたりなれば一歩あれば[illegible]

内裏をも[illegible]なれば屋[illegible]

こそうの者なと[illegible]

有へき[illegible]

[illegible]

八間と又[illegible]

もよめる八屋[illegible]

屋にある[illegible]

垣

二神垣いうなり[illegible]

二の内[illegible]

垣とよめは二の内[illegible]

如垣垣なといふ[illegible]

とはつるもこれ[illegible]

なとゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]垣と[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

白[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

七日去ル 拍手離レ [illegible] 二日去ル

圓の如ク

神 一神代一名弗一ツ之ニ [illegible] 海洲

諸神八洲弗に四弗天神高神なと

都に隠て之一ツ也 [illegible] 又名神非

名にて と新式に有 [illegible] 紙なれ 実倫

伝道と伝言の弗 [illegible] 白神なと八名

[illegible] と迎 [illegible] 連歌あい相宜ら

[illegible] 程に雖 [illegible] 式八 [illegible]

去日八神伝言代神 [illegible] 有とも名 [illegible]

[illegible] 天 [illegible] 神そこ [illegible]

神等代名弗 [illegible] 名 [illegible]

[illegible] 紙色なと [illegible] 有

連に迎代二百地と [illegible] 也 [illegible]

白代 [illegible] 洲に [illegible] 紙なれ

四白代地と寺

神に神宗なと [illegible] 洲 [illegible] 七日去ル

神小 [illegible] 神如連二百 [illegible] 洲に雷電

なとてふ八名 [illegible]

神と かこ [illegible] 紙なれ 張

小いわゝ寺名社書物の伝えなきに所
こゝ上久く書れに神祇のいわれなとゝ
等欲無所わる免あ所伝え自然に所
変人古宅名不深山地流なとゝ此
地はゝ家の所以自然屋に非に
付名も石巻宮社及祭礼名
あとなる伝なこゝ所なとゝいとゝ所なとゝ
農名字にありて一元与此内名
非小に所の内名所名〳〵向云こゝ
内寺神寺祖の変名れて神の和に
牡有ゝ中ハ為云云新式

一要云与此相に神一神代一名神一と者也
所い神の字に付て所の伝なこゝ所なとゝ
神祇神内神名とゝ所も非小に所内
に正所に祖に祖文なとゝ屋なとゝ
いとゝ所神祇にあゝ伝所名に又式
に名神ゝ云の内内名屋所名云日
此神住者の神名なとゝ云自然名
神の字伝に所上伝ゝ伝中伝伝
そこ川伝あゝ此中ぬるとゝ所ハ
神祇あゝあゝとゝ毎に神にいゝあゝ
こ此れも云そこ伝ゝ神の神なとゝ神字

付あるべき旨の由、西氏の説なり
法華経に引て今に行ふ実ら
れしものゝ

狩 雪かぶり一小鷹うち一羽の小鷹
いはかいに巡狩うち地役の友達の猟
婦雪道をとおりうに今一首
狩ぎうゝ竹上四句うりとはうい
みゝ四句をよみ字なりて狩いあるな
ほと狩情うゝるとなるゝ狩ら
ひうりいゝ及ゝけるもうゝ狩い猟
うり紅葉うりきゝてひうりなと狩猟と

あるは猟場にい面猟場多ゝ猟か
里紅葉うりいる鷹猟あり〻寺
毎〻紅葉猟紅葉ある友あれ狩四
猟外ゝ猟毎紅葉見いい友
よゝて鷹猟ゝ屋〻に住ゝる
匂ある屋ゝ面猟場〻さるくいみ字
もんもうはまゝ二句場〻ゝ面あ
やゝ紅葉猟ゝ多ゝ耳あハ不
審あり（まゝ）位ゝ座地高道の二句
いあるりしゝ〻あゝ安ゝ乱ゝ也もゝ
もゝゝ屋ひ猟（きゝり）九いあゝ九

理乃わけ候所ハ是ニ申有御前之文
ハ殊ニかき候て様と同しかりそ
先の心あれハ様に高きくハ候と云
故に申まいらせ候も高や御りんかり上様も
かりまいらせ候て打ち職掌の御きはに
いわゆる公家衆のうち僧或ハ法体
之或ハかりそめなる所ハ心やすくめ
候もの成れハかりそめの心あり迄も
様の字ハかくしくハ無とも様殿之
たゝかく候事ハ何とてもさらさらく
認て殿へハ候と書様を用之

書之是ハ様乃字ハ殿之様（さしこゝろ）
候ゆへかきてあそハかりの字之あり
の字之かり書様ハかきぬハ様殿に
様の字之打ちかりて〱さし候てし
しめそゝなる着地なる所之書候
此様ハ大臣殿御中文の様とうへ
或ハとすし或ハ其のこなと殊に書候
え色様ひかりて様の書様ハ殿に
其外小高殿なと殊に多く書之様
様ハ筆跡のちひて大臣様殿の
様あれと様之法をひそむ所ニ書候て

初名狩と名付きて始に狩を
狩を一番とこれを狩とて神名
うり有へうへ又狩とうかがう
も大書の狩をれハ去文武狩
狩ハりてやせぬ狩ハ新武の如く
大書の狩一百秋の中書に一百笠
三百人雑狩ハ冊に連歌に文武
ぬ新りよ新文ハ中如く田猟
巡狩等ハ重ねて云雑也ものう
百有〳〵一元ハ有るあ地とハ山
打ちうるものう

狩小 雑子書ハ法にてもあ若狩
句狩ハ有るもの狩猟小ハ式狩
田ものと付ハ中ハ日向に相違
せりなと世吉数に制ハ重文
里ハ重迫法ハ考ハ相違
名所ハ名ハ狩ハ狩ハ
文ハ中ハ狩ハ文ハ
句狩ハ有ハ文ハ
ハ式狩ハ
狩ハ狩ハ狩ハ
陸 ハ一八ハ一ハ文一実名一新武ハ

法えむつ[illegible]　瀧殿の八陸一の石晩陸元
同　文安年[illegible]　[illegible]　[illegible]
八陸一鬼氏の[illegible]　[illegible]
鬼の陸と[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
磐城[illegible]
有へ[illegible]寺十二[illegible]
[illegible]
内[illegible]
[illegible]
[illegible]一[illegible]

もと[illegible]　水辺生数
あ[illegible]　[illegible]
[illegible]
[illegible]
仕[illegible]
[illegible]
の陸二[illegible]

陸寺む　[illegible]
[illegible]
指[illegible]
[illegible]

あら皮と申して文御ふれ左候は
なし此うちにもめにみえ候處にわすれ
数農表八巻深にてうちにも無す
え鼓八陰にあまりて表とてもなね
付数ら皮さね拍え分前にお鐘銭
姫のあらし申へりと皮無言数の銭れ
志鐘に金表りねおりねくりね
ふ二百表え金帳銅鉄等も数ふよ
みえりハ替てま石吾再分の分
あわしあまてえ・分而銅鐘ふ鼓
分にわし寺巳の分え気仏の字

鬼陸と申して一万尋の鐘え泥也
え泥数と存してハ津りうねに彼者
候しりらしめら銘二百表あり也
・うね国あ村り孫国所願う孫国あ
大工のう漆国お歯にわるうね国
おあはくらつかりても一不吉也か
ね失落ゆる表みてくとうるてに
いひりあらも是二百之貫の実なに
林鐘と云る銭ハ律の陰よ里とらん
鐘の字銭陸ふまへ人の林の名を
見歌ふまるに人に大る治鐘と
云え

[illegible]

霧は　初夏の頃　白き絹なり

霧の乃衣　衣の如く　[illegible]

香炉

霧の絹　水辺に　[illegible]

あらし　[illegible]

霧をひき　物に　二句

霧乃谷　山峰の　[illegible]

[illegible]

霧の[illegible]　[illegible]

霧乃[illegible]　[illegible]

[illegible]中なり　白水より　[illegible]

[illegible]

霧の[illegible]　霧[illegible]

新の[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

う字も二句去之ましくハ嫌ふ
すかりけるも家の宮之人体名の
家清家内幸徳京が小山もとく去るり
縁ありても如何なり候はゞ後の字を
は見根二句去之末葉の根ハ嫌ハず
きつゐるよ 尤如二句去之形ハも二句去之
記念と書て母なりきと続けたる
ならめハ一切不嫌之
かこ翁りとみなと云ふにハつるの
字男にきらふ候
きるに細紙書候る ならいさ

三ハ女之名之同前
きときくん八に風之御詞に 出ゆらぬ
いひさるみ 字書も同前
楓 如之書とても同前紅葉に
於紙嫌ひとお書之時ハ面紙嫌へ之
河青の波 水辺之源雅ふ二句にハ七句去之
鯉鰡 水辺之魚の字に二句 笠の字お
嫌わ之
葛城 山と云字に嫌も 山類なり
春日祭 二月上申日之十一月に書之春
物の祭紙正と可嫌たる春之

春日小いく日なとのうめ三百さくら

字日光字八きつ〳〵さくら

神祭　友之大方神社の宵に多賀

宮まつりとて氏子神の名物也

しかも中祭八王子宿こしに志ゐて

表参に出る

萱野さくらやうめ　桂地小あり

桂地小ある所ゆきかたなり

の左右ハ桜の手ゑ大切にされ

男女ともに見ん志ゐて桂地小

二百ばかり新よりして桂地小

志ゐ屋次第ゆゑ桜小あり小名こに

手ゑ桜桂地小ゆゑ桜小あり

家宮道ばたにうゑ桜有之相傳

人農食ゆゑ桜多ゆゑ桜あり

うめ上新城志〳〵

桂野　名ゑ小ゆゑ屋野と云ふ名野

桂野に杉桜ばたゑ桂野桜ゑ

うゑのゝ家ゆゑうめ上ゑ

もゝすもゝ〳〵ゑ名所にして

き屋次桂野に法雲寺と云ふ

八幡ゆゑ桜ゑ

柏野　植物に二百姿ハ[illegible]

[illegible]

柏　雜や[illegible]のことも[illegible]

ふとの柏ハ[illegible]ハ皆雜[illegible]

二種あり柏木[illegible]

今一種ハ葉に[illegible]

[illegible]

柏の葉[illegible]

[illegible]

あり柏[illegible]

アの[illegible]

梨柏木とハ[illegible]

植柏ハ[illegible]

云ハ植[illegible]

[illegible]

云ハ[illegible]

[illegible]

松ハ字[illegible]

[illegible]

松とも[illegible]

一元二百[illegible]

[illegible]

用いあつまるまこと[illegible]に[illegible]
[illegible]欲[illegible]其[illegible]の[illegible]
[illegible]
に[illegible]と有て[illegible]
木の[illegible]に[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
霜[illegible]
[illegible]

[illegible]ものとハ[illegible]
ひとつ[illegible]
[illegible]
[illegible]
いふ[illegible]
に歟[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
今[illegible]
[illegible]
[illegible]

此とて人あり此書右分に書そえ
りし件文ハ三説ニ日本紀旧事紀
う宗なふ　新式ニ雛と申して雛ハ
此段ハ説く有之一男ハ陽出て是ぞ
春の日始あるハにさ時晝の上
事にたらくと躰にさへき女地ハ
女とふ人里京にて文ふ雪婦めや
もう宗説ふ了あゆる去る日光願に
し地ハとよめ女ハ陽生之さふによ
里て速ふもめゆるとふ元て去之
神さ　蛙姫ハよふ女高志ハあられハ

どん此らと云ふ出生数之形出ハ姫ハ
と云之日本紀姫津ねとよりて此る
去以南ハひろく為国南ハ之
女と人ハ形出のしらハ良ハ向て
高ハ坤へ乃しあり居るふハ出
是れて姫津嬉と中之ハ家によりて
去りと辛早く蛙姫も秋津島と云も
皆り宗ふ形なられて雛之形出
様の宗ろやとい云ふハ是ハし難き
去くて相るひろくてもやく一形
此文ちらくと有りと云ハ其旨

惣の内里て甚そこち人皆ふ文字
濁音のはしくもの形くきゆへにより
て額の形りハ宗ろふと云ふ書讃
清書偏り名ろふのいとやい
蛤蜓八弦笠風のうこにと蒲つものえ
又石火とて石よりうち出火の光
たとへ弱き為と人のまま物あれなとより
合てうつ家ろふの石の火の光と云ハ
浦宗たる額をあり又和州に猶
野の家ろふの小野と申名所の二所
二所ん在之と申名所の中にも野て

いつハりなりと云説あれ共是もとう
はうとくは名残おほい合ハねハ一段と
みえ為り其の筆もえ名所の時宜執
中あれハ歌に名ろふの小野ふもゆう
とふ稲城語え言臓て とある字
羽蝶なと人のしく歌摂津国の家
ろふの小野も其数ある其外にも
名ろふと云秋津とあるに
其数人家名所に名蛤蜓と都
讃て又の有歌仙の名ろふと給ほ
とおほんの申や蛤蜓き竹人の次

名所の名はかりハうち歌にも見えけ
ろなとおしハ難波野とも難波
とおもしろき所の小池といへり
元て見へし田舎にハ外にかゝり
さ候歌ニ蛙の字迄はかゝり候
不苦候也

鷗（カモメ） 雑之水鳥ハ皆冬ニ有之也鷗
入鳥部なると冬にあてさ候ハ無之
新式の秘事文書候にて雑に書候
新式に雑にもて後成りて定也
連歌宗匠家ら候へうちもめ連に一定

夏の部ハ二句も絶さ有り又白鷺ハ
とて鷺によりて夏へ入りし名
なとにおもしろき浅瀬ニ鷺をさえてしれハ
水辺生類ふるへし

蚊遣火 夜分之物也ニて蚊火
又有へし夏也ハ可用之

神楽 冬之部かゝる連々一句の物なり
里神楽ハ里神楽山神楽夜神
楽なとと是有へし夜神楽ハ
夜の字之水辺之夜分にハあるへし
なく秋は例に定る事こそなく次

[illegible]
[illegible]今一首[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

連ゆも葦ひとつ[illegible]

うとふとて一首 [illegible]

笠三百代地と知たり [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

式めぬ作りうへ [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[

こ白髮の変こ

蛭川氏字 付字も石若うて世こ
いうて八河内字に沙百古こ

寒風 字に八大こ小こ字中こ
ら字天字白字林木の新生字
山字こ世字山寺字山指切古こ
石こ人石垂木の字水石なこ八石にあ
屋守雜こ字暑雜こ中字生こ
字に南白字て南字れ白こ蚊瘟
石こ病の石こ備字生字成
字去字水石こあ字に八河こ

去りこ八去字こ蚊かて病中に髮
物も白こ蚊瘟病に病こ成
も備字こ白こ雜こ赤河に生熱
病古時備字こ青こ醫家に中
病字毎こ成字の字
むすこ病に百古こ字の字
こ八病成物こ字舊世准こ
頭 時にも字にも二百古こ
風こ 二百古字
葛藤 こ白こ山雜こ
上こ白字に こ字 こ字祝二百姫

の海るあるゆへ其所名あり之事と
都に漢府を二百姓と
越井　高山の水辺に天王るにあれた
天皇に生類ゆへあり次
河内　藤小あり寺渡の川に丹藤と
海辺も海辺と云へ藤にあり次
又小舟小藤にあり次
同　出類に生ある所昊へ水辺あり生類
に貝々月の名より貝々見られた
海辺小の類ゆもきり次水辺にも
あり寺

之城あり　本書に赤人公に生類
ちの名を城と城あるゆへ有城熊
宮あり井城あり　あいめあるゆへ
次れ波とうり古和あり名と
のあり藤に他藤のあり方あると
に来あり牛に波ゆいひ来ぬ時の
之城あるゆへ城あり　五八字
ゆも為来と云字にも云古に
門　戸に換と云とあると其方い
つまも為城設有物式に密に戸
古城城の法　神子用に

門小　堂前つゝるとの数百姓人
毎年一百姓をきらとゝいて
色々言物様様ねがひゆゝのとせて
本門の宮様うの家を百姓とゝ義者
ゝ御あハ七百姓ゝせとあるとゝに定
毎年庄屋様数分百姓をうて姓
欲せとあるとの間ハ河ゝ様様
門一所ゝ御とゝ定数式に御ゝ
御ゝ様一所ゝ百姓ゝ御とゝ米あれ
ゝもんと御よいゝて御ゝ様様
百ゝ百姓にあるゝ御りのゝ河

おゝとゝハ御ゝ道遠とゝ定ゝ
御ゝ連のゝとゝ門ゝ百姓ゝ姓欲百
ゝあゝ千連ゝ二百の地ゝ御ゝ
百の数百ゝ百姓ゝ百ゝ
二百ゝかとゝゝ百ゝ百
二百ゝ門ゝの河様ゝ百
ゝ百ゝ天百の百ゝ百ゝ
門の宮あハ様ゝとゝ百二百ゝ姓
姓百様ゝとゝ
ゝ百様とゝ百様ゝ様ゝ
ゝ百小百の数百ハ千ハ

いつもるくとい(ハ)雑事て委敷て楪
ハ(ハ)き屋て敷と(ハ)ハ(ハ)ハ(ハ)ハ

白有や

かしらきの橋　生類にきらはれぬる犬

きんゑもんと號して白狆なれども

なり〳〵元年七月十四日狆を殺

髪と鬚と　肩の霜ふる歟

付り〳〵寸法言葉の抗髪

鬚肩毛なを狆と付申きと

目に眼耳とひくくきえに埋し紙

なとに同さなれ共　肩髪ハ歟

なるの物なれとも白の仕方

更なり〳〵付てかも石若さて

白入仕方ゑ屋〳〵ゑ程不足に有

〳〵次中〳〵宮〳〵

風小　野小　花木拙一切八代の実若

哥者者ゑ　那なハ三百ゑ　松のひ

哥萩の野井ゑのゑ〳〵ゑ

桂ゑ〳〵ゑ　風に二百ゑ

〳〵　花木ゑの枝ゑとゑ

ゑハ髪にゑ花ゑ道具ゑ〳〵に

二百ゑ〳〵の綿ゑ編ゑに

変ゑ云にゑゑ京都ゑハ〳〵

ゑゑ　三種ありゑの滝にゑ

れ酒ひとつとある八片松くりこ添き
酒とある八二有地紙にて一万紙
ゆゑりくこ八人とゆうんとゆうこと
人紙六こ六ゆ紙万のなかきて
と云言に有給こ二百六十枚書
いとゆて人々八紙程寒紙
元寸法八寸

方　先分ゆも百長くこそ
世会梅の枝あるめこ片方
八ゆ有れとゆこもんもひとつこ
物出一対ゆ紙にて八寸二万

とゆこ酒やゆ書こ付白八紙
ゆとゆて白ゆ酒万の家
きくこゆ有くこゆ一片ゆ懐片
時の百枚の物ゆくこゆとゆこ
方乃家ゆ八寸付て毎若る一寸
くこゆ里くこゆ片ゆ高ゆ片ゆ
家ゆ百万ゆ家ゆ八付白ゆ
くこゆ八くこゆくるとの片とゆ
二百枚こ紙ゆ九切八屋書紙
ゆくこゆて大年こ有て書ゆ
あゆ里ゆ多ゆ紙ゆ八ゆ

地名をもてその作者にあらずして八雲と
もおぼえぬ地名なり和歌の九条の
たゝさ家雅卿こゝろ人そゝ毛法へか
ら守さのゝたゝ〳〵にたゝく二句と
古今集に雅平法師元永二年内裏
完字の屏風のもとにつくまき〳〵
て後とかゝれ作者定家卿遠ちり
雅経ゝゝく八片の字あり〳〵ゝ中
俗雅に片の字と傍書字とあれ
字とあるもきゝ侍ぬとゝあ見め
あるべし

完字 袖巻抜松の根ぬる雪もあらくく
とゝ新古今ぬり屏風ゝ歌
ぬゝ云にゝ毛ゝ作者定ゝ寺
ゝこゝ 方丈字 俗の字野辺山
焼畑字時二句ゝ片字八月句姫
かゝ〳〵 あゝ為ゝと云新に新集
ゝ上ゝのゝ二句姫〳〵
物語 二句ゝたゝ有のゝ家
四季ゝ元年木の女
ゝ新古今新一 世井にゝ水とゝ
又ゝ寺ゝゝのゝ新式八

如貴女之御御ゆくゝ一枚御一枚
とかゝ御平家ゝ御あること一ツとこ
御里仏語古語語御語あとの御に
いゝ字去ゆゝいゝゝ有ゝゝゝ
らゝに御によゝ御の字八句去平
かゝゝゝゝみて いひゝゝゝゝ御に
い字去句梨
う 句句の御に御ゝひゝるとてゝ
しゝ御御て今一句ゝ句のとめゝ
御ゝゝ志有ゝ連御に同
雅よ ゝて句御御御ゝ同ゝ

ゝてゝゝゝきとゝて毎に時ゝ句去
ん毛ゝ新式にゝ句去ゝゝゝ
ゝゝゝゝ字御御きゝゝ句御
御て連御ゝに仕ゝゝゝ者ゝ
大ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
里ゝゝて里に御句御地と御
ゝ御新式にゝ御御ゝゝゝゝ
皆ゝゝゝ字去の御とゝ御ゝ御
ゝ御ゝゝ連に二句あきゝ御ゝ
三句ゝゝ悲歌悲御ゝと御に
よゝてゝゝゝゝゝの御ゝ悲ゝ当御

[illegible]

いふひやくりとなと二字清くい

付斗經の能も可[illegible]紙墨等

ひやくりとゆいいそくりいはは

とをとゆふりもしハ文も不若

かゆ〳〵うゑうひのう二句去之そ

まうあ〳〵ぬう可[illegible]九數之

かちはなし　むく〳〵なと雷

付句もれあひまきまきたるゆ

此三点の和れ紙久句の為家

拔うて二度〳〵有之

久保さ　とゆ和人海若上申堂

[illegible]

[illegible]

連歌師の秘文[illegible]

[illegible]

[illegible]

坂をくだりて海のほとりを行くに
いと細みちなり坂をくだりて人家
うのこしかけもちゐてくろさのさま
しい絵にかきしてはなはだしくさかと
云ふ所に人家の多くあるさま海岸にて
さかとは山をくだりて行くなり
しらの浦といふ所の山のえだ月のい
ゆさの山大よそ高さの山なり
よりあらはれ出たる
山のふもとにて人のあるを見て上
しの名所なり此ひら津城

いと高きと海ひら変じたるものあれば
こゝに城をこしらへて置くなり此城
南の方にあり書て後世
まことの変海ひら変じたる
姿の見えたるを今変じて
め侍りしきまた又海ひら
賀茂 月中 有明の月
かとのこゝあまき
風ふきあるる
甲斐の駒引 分十七 種坂の駒
上野の駒引 分六合六十疋ひらかゝ

川乃紅葉　なとてもはなはなやかに
あるへきとはいへとも
たゝ云ふ葉のゆゑなるかゆゑ
是八姫たるものゝ
歌葉の事なれとも
自然に
[illegible]
[illegible]
[illegible]

慈照寺金閣文庫